ヒアリング報告書

島根県の一牛乳搾取業者の創業と発展
-有限会社クボタ牛乳の沿革-

概要：

下記は、大正 3 年創業の有限会社クボタ牛乳 4 代目現会長久保田政男氏に会社創業経緯等についてヒアリングした報告書である。初代茂吉は、明治後期、耕作牛を飼育するが、失敗。茂吉の長男が南樺太で働いた後立寄った札幌近郊の牧場で、乳牛飼育、牛乳製造技術を見聞する。帰宅後、エアシャ―種 1 頭を購入し、大正 3 年に牛乳の製造販売をスタートした。殺菌牛乳を同村の富裕層や病人宅に宅配することからはじめ、その後ホルスタインを購入し、生乳生産を拡大する。大正 12 年から、浜田の衛戍病院に納入し事業を発展させるが、太平洋戦争により縮小を余儀なくされる。戦後は、新しい変化に対応した工夫を加え今日に至っている。

ヒアリング

語り手・日時・場所等

第 1 回 2018 年 8 月 2 日、島根県浜田市の有限会社クボタ牛乳の会長久保田政男氏（ヒアリング当時 84 歳）に同会社会長室においてヒアリングを実施した。

第 2 回 2019 年 5 月 21 日、電話にて追加のヒアリングを行った

聞き手：江原絢子（J ミルク酪農乳業史料収集活用事業推進委員）

創業までの経緯

問：創業までの事情を聞いていらっしゃるとのことですがどのような事情かご説明いただきたい。

答：久保田家は、江戸時代より島根県三隅の古市場（島根県那賀郡古市場村）で、農業を営んでおり、近隣農家にも一部を貸与するなど田畑、山林をかなり所有していた。初代は久保田茂吉といった。明治後期、村では県下で流行していたデボン種の牛の飼育が奨励された。茂吉は、村の代表として牛の買い付けなどを行ったが価格が下落し、大損をしてしまい破産状態となった。

問：その後、どの様にして乳業を起こすきっかけをつくられたのか。
長男の政市は、当時20代で家を救うために、樺太（サハリン）の炭鉱で2年働いたが、帰途、北海道札幌近郊の牧場で、牛乳搾取業者の実態を見聞して帰宅した。これがきっかけとなり、政市は、父を説得して乳牛を購入し、大正3年（1914)、牛乳搾取販売業を開業した。

問：それは、3代目や2代目から伝え聞いている話なのか。とても具体的な内容だが。

答：私が幼少の頃、曾祖父茂吉、祖父政市の苦労話として聞いた記憶と祖父政市の書き残した家系永大記録に基づいている。

創業の頃と牛乳販売の拡大方法

問：創業時の乳牛の種類や牛乳の販売の方法についてもう少し教えてほしい。

答：創業は大正3年5月で、茂吉と政市とで、先に話した島根県那賀郡古市場村（現浜田市三隅町古市場）で久保田牧場として始めたが、当初は、エアシャ―種1頭を購入して飼育し、搾乳した。牛乳は、蒸し器で殺菌して瓶詰めし、近隣の富裕層や病人のいる家に自転車等で配達した。得意先が少しずつ増えると、ホルスタイン種を7頭加えた。

問：当時は、まだ牛乳を好んで飲む人は多くはなかったのでは？

答：健康に良いだけでなく、とくに結核などの病人には重要なことは知られていたから、最初はそうした家庭が多かったと思うが、大正12年には、浜田の陸軍第21連隊衛戍病院（現国立病院機構浜田医療センター）に納入することになり、政市の長男一郎（3代目）が、約20キロの道を毎日自転車で配達した。自転車のハンドルカバーには「陸軍御用達」と掲げていたそうだ。

問：病院に販路を広げるきっかけはなにか。かなり離れたところに配達することになるが、当時、浜田に牛乳搾取業者はいなかったのか。

答：S牧場があったが、あまり評判が良くなかったようだ。たまたまわが家に関わっていた浜田の旅館の女将から陸軍で牛乳業者を求めていることを知らされ、紹介してもらうことで納入することになった。

問：自転車ではそれほど多く配達できなかったのではないか。

答：牛乳袋に片方30本ずつ60本位は運べたと思う。また、山陰本線が開通すると、三隅駅まで中学生などに生乳を運んでもらい、列車に積みこみ浜田駅で受け取って借家で殺菌するようになった。しかし、配送量が増えると遠路運ぶのは大変になり、大正 13 年に那賀郡石見村（現浜田市原井町）

に牛舎、牛乳処理場などを一部移し、茂吉と政市の次男が古市場村で、政市と一郎が原井町で営業した。

問：浜田に本拠地を置いてさらに事業は拡大したとのことだが、具体的にはどのように。

答：その後もさらに浜田の東にまで山陰本線を利用して、駅ごとに自転車を置き、沿線の得意先を拡大し配達範囲を広げた。昭和 15 年には乳牛頭数も増え、牛舎も不足したため、浜田原井町に牛舎を新築し、約 30 頭の乳牛をかかえるまでになった。高圧パックという圧力で殺菌する機械を購入したので、木製のふたをした牛乳瓶（1 本約 180ml）で 1 日 1000 本程度生産した。この頃 20 代の一郎が各駅におろした牛乳を自転車で宅配したが、温泉津町あたりまでひろげた。

太平洋戦争時のこと

問：戦争中は何かと大変だったのでは？そのあたりの事情について

答：昭和 16 年、太平洋戦争がはじまると次第に飼料が不足し、それを確保するために精米製粉業を副業として開業し、米ぬかなどを飼料として活用した。また、古市場村の営業を停止し、茂吉は浜田に移住し、政市が中心になって業務をおこなった。

昭和 19 年には、一郎が呉の海軍に応召となるだけでなく、従業員 4 名も応召されたため、やむなく乳牛を 7,8 頭に減らして営業を縮小した。そのころ私は小学 4 年生だった。20 年の 2 月に茂吉が 86 歳で亡くなり、翌年、台湾から一郎も復員した。

戦後の牛乳販売

問：戦後もすぐには復興することが大変だったと思うけれど戦後はどのようにしたのか

答：GHQ(連合国軍総司令部)の政策により昭和 22 年食品衛生法が施行され、それに伴う乳等省令施行によって、国内の牛乳製造は低温殺菌法を採用することになった。

いっぽう、飼料確保も緩和したために、精米製粉業を廃業、同所を改築して低温殺菌機、冷凍機、冷蔵庫、牛乳冷却装置、半自動瓶詰機を導入し、牛乳製造を本格化した。

問：戦後は、牛乳を日常に飲む家庭も少しずつは増加すると思われるが、周囲の状況など変化はあったのか。

答：昭和 28 年以降、牛乳の需要が高まったが、原料乳が不足してきた。そこで 40 代半ばとなっていた一郎は、石見農業協同組合（現 JA しまね石見中央本部）と提携して近隣の長浜、周布、竹迫など 11 地区の農家を回って酪農を奨励した。これにより集乳量は、1 日 5 石（約 1 トン）となった。余乳も出るようになり、昭和 30 年頃に大田市の誘致工場「グリコ山陰協同乳業」の操業開始にともない、出資して余乳を供給した。また、浜田市内の食料品店、事業所などへ卸すなど 10 人の従業員でさらなる拡張に励んだ。

学校給食の牛乳供給

問：戦後、学校給食が始まったが、それにはどのようにかかわったのか。

答：浜田でも学校給食に牛乳が導入され、昭和 42 年から市内の小学校と中学校 3 校に 200ml 瓶の牛乳の供給を開始した。また昭和 45 年には、浜田市学校給食センターが建設され、脱脂粉乳に 3 割の牛乳を混ぜた混合乳給食が始まったので、牛乳をセンターに供給するようになった。

問：当時はガラス瓶だったと思うが容器が切り替わったのはいつ頃か。

答：浜田市教育委員会からガラス瓶に代わるワンウェイで且つ中味の見える容器を検討するよう要請があり、私が各地の乳機メーカーを視察し、ポリエチレン製で中身の見える容器を導入し、浜田市内や周辺の学校で試験的に実施した。しかし、廃棄物処理の問題でポリ容器の許可が下りなくなりガラス瓶に戻すことになったが、その後再び許可が下りポリ容器供給が再開した。さらに、スーパーマーケットへの牛乳納入が 500ml、1000ml の紙容器が主流となっていたことから、500ml、1000ml の紙容器充填機を導入し、後に、韓国の包装容器製造メーカーの学校給食用紙容器の導入も行った。

問：学校給食への納入で苦労したことはどのようなことか。

答：どんな天候の時でも小さな学校でも配達しなければならないので、大雪の際の山間部の学校にわずかな本数運ぶのは大変だったし、朝まだ学校関係者が出勤する前に搬入をはじめないと 11 時頃までに配達を終える必要があるなど制約が多く、奉仕的な気持ちも必要だと思う。

話者の略歴や現在の営業種目など

問：最後に会長の略歴を教えていただきたい。

答：昭和 9 年生まれ。子供の頃、飼育していた乳牛の死亡事故を見るにつけ、獣医師になることを目指し、帯広畜産大学獣医学科を昭和 32 年に卒業した。その後、全国酪農業協同組合連合会の研究施設、長野県の家畜診療所、大田市のグリコ山陰協同乳業から獣医師として酪農家の指導を請われて入社。その後、生乳の取引体制の変化により牧場での酪農をやめて牛乳の製造販売に専念することにして家業を継ぐ。

会長：久保田政男氏

問：現在の会社の概要は？

答：営業種目は、乳処理業、乳製品製造業、清涼飲料水製造業、菓子製造業、アイスクリーム類製造業。代表者は 5 代目久保田英治、従業員 24 人。

その後、現在に至るまでのヒアリングも行ったが、今回は戦後の学校給食までを取り上げた。なお、上記のヒアリングは、下記の資料も参考にし、久保田政男氏に確認いただいた。ヒアリングに貴重な時間を割いていただいたことに深く感謝申し上げる。

2020 年 1 月記

文責：江原絢子
内閣官房明治 150 年関連施策
酪農乳業産業史を活用した競争力強化事業
酪農乳業史料収集活用事業推進委員
（東京家政学院大学名誉教授）

参考資料：久保田政男氏のメモ「有限会社　クボタ牛乳の沿革史」
有限会社クボタ牛乳ホームページ
「さんいん企業物語　クボタ牛乳（浜田市）」１・２『週刊山陰経済ウイークリー』8/1-8/6, 8/7-8/13 山陰中央新報社、2018